

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成27年5月28日 (2015.5.28)

【公表番号】特表2014-514104(P2014-514104A)

【公表日】平成26年6月19日 (2014.6.19)

【年通号数】公開・登録公報2014-032

【出願番号】特願2014-505625(P2014-505625)

【国際特許分類】

A 6 1 M 5/31 (2006.01)

A 6 1 M 5/24 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 5/31

A 6 1 M 5/24

【手続補正書】

【提出日】平成27年4月10日 (2015.4.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 9】

用量を送達する前に、使用者は薬物送達デバイス 1 0 0 をプライミングし得る。特に、使用者は第一の薬剤 2 5 1 のプライミング用量を、バイパス流路を通して無理やり流すことによって、第一の薬剤 2 5 1 を用いて薬物送達デバイス 1 0 0 をプライミングし得る。図 1 4 a ~ b は薬用モジュール 2 0 0 のバイパス流路を通る薬剤のフローを描く。特に、第一の薬剤 2 5 1 のバイパス流は矢印 2 7 0 によって示される。示された通り、流路は外部ボディ 2 0 8 から板 2 0 6 中の溝 2 3 2 の周りに、そして次いで、ピン機能 2 0 4 と回転可能なボディ 2 0 2 の間を下って（つまり、バイパス流路 2 6 0 によって形成された流路、及び流路 2 4 4 を）走る。バイパス流路は、薬用モジュール中に保存された第二の薬剤 2 5 0 との接触を避ける。尚、例示的薬用モジュール 2 0 0 が、プライミング能力を助けるためのバイパス機能を含むものの、出願人の提案した概念による他の薬用モジュールはそのようなバイパス機能を含み得ない。